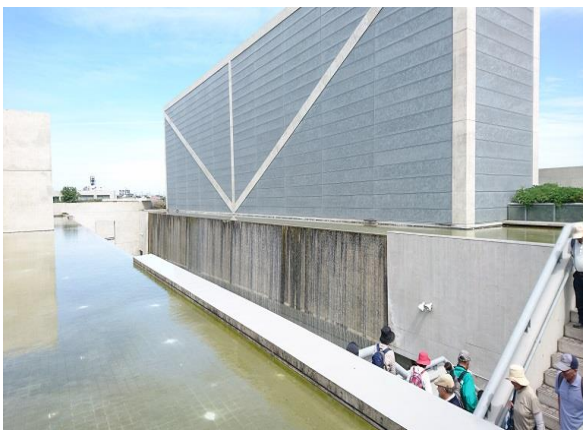


歴史サークル企画の飛鳥里山クラブ歴史フォローアップ研修がありました。
今回は「行基誕生1350年 行基を訪ねて」というテーマで、大阪狭山市の府立狭山池博物館を中心に、行基の誕生地にある家原寺を散策し研修しました。

行基は飛鳥、奈良時代に生き、民衆と共に灌漑用水路やため池、橋、港等色々な土木工事を手掛けて、僧侶の枠を超え困窮する人々のために、布施屋（救護施設）や多くの寺院の建立・整備に努め、多くの人々の信仰を仰いで慕われたが、あまりの民衆の心に影響を与えたため、時の朝廷から迫害を受けながらも自己の信念を貫き、やがて奈良の大仏殿建立に大きく寄与し、当時の最高位「大僧正」の位が与えられ、行基菩薩となり生誕1350年を迎えて、今なお輝きを失っていない立派な僧侶だったようです。私たちはそんな彼の一部ではあるがその足跡を辿ってみました。

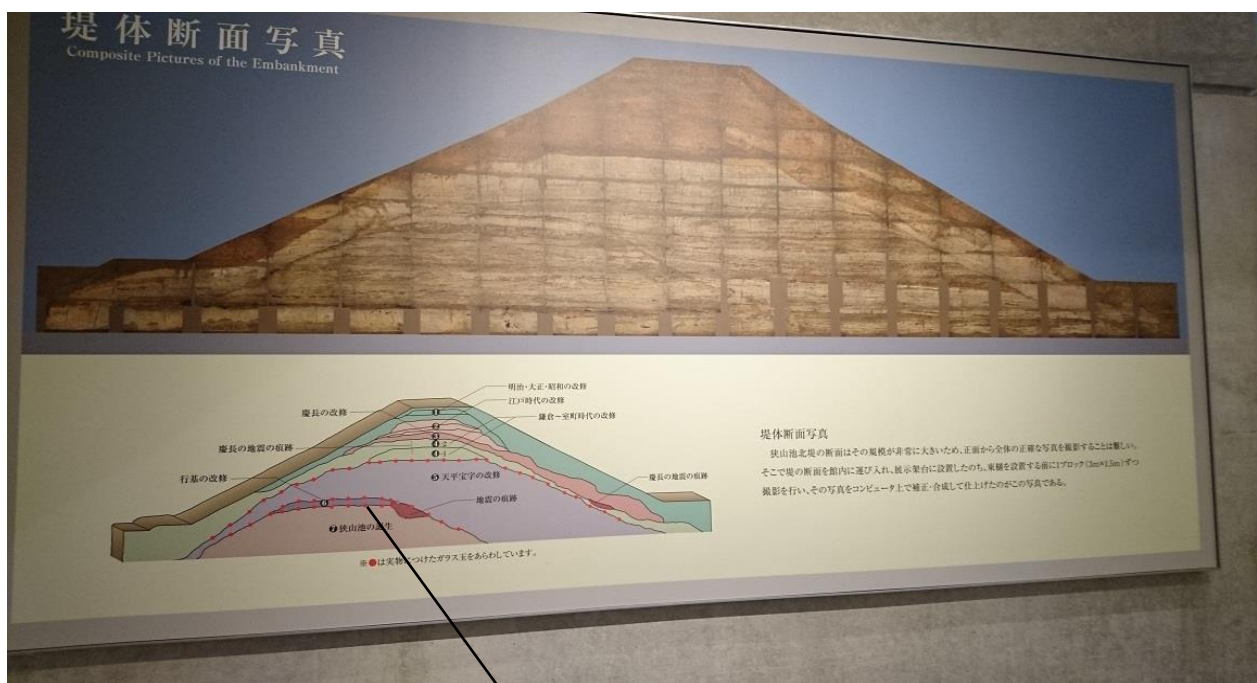
バスで明日香村を出発し、狭山池博物館を見学しました。



館内へは、階段を下りて水のカーテンをくぐり、地下へ降りて行くと思っていたのですが、地下ではなく、上階から一階へ下って行くことが分かりました

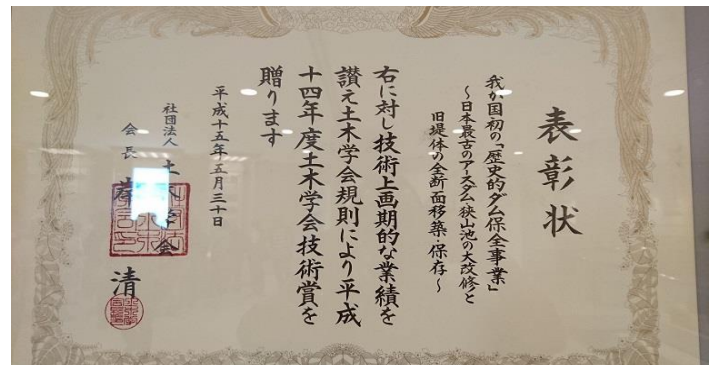


事前に申し込みは、ボランティアガイドさんに案内してもらえます。



狭山池北堤防の断面図です。断面が非常に大きく正確な写真撮影ができない為、細切れに撮りコンピューターで合成したものです。

⑥行基が改修工事をした箇所



これは日本最古のアースダム狭山池の大改修工事の時、飛鳥時代から昭和にかけ何回も改修されてきた堤体の全断面の土を特殊処理して移築保存したものだそうです。

自然状態の土を保存すると、変形、乾燥収縮してひび割れ、更にカビ、コケが発生し変色するため、ポリエチレングリコール（PEG）水溶液で含浸して保存処理された。

この技術は、大阪府と京都大学、奈良文化財研究所、（株）大林組が開発して特許出願中とのことです。そしてこの功績が土木学会より表彰されました。



堤防の下層部には四角い船材の木樋、その下には飛鳥奈良時代に造られたと思われるくり抜き式の木樋がありました。



船材の四角い木樋には、工事に参加した複数の商店の屋号が刻印されています。



木樋の池川と外側には、木製に代わり石で強化されていました。この石は付近の古墳から出土した石棺を利用したとのことです。



狭山池北堤防の上で昼食

狭山池博物館は狭山池の大改修の時、自然の堤体の断面を切り取り特殊加工して保存された博物館です。その規模の大きさには驚きです。



家原寺（えばらじ）

行基の誕生の地です。父の菩提のため生家のあった所をお寺に改めて「家原寺」と名付けられました。ご本尊の文殊菩薩は行基が作ったと言われています。



寺の各所は整備中でした。



大野寺

行基が開創した寺院で、60歳（727年）の時に創建したと言われています。現在は本堂と門、庫裡を残すのみですが、当時は土塔のある区域までを含む広大な敷地を誇っていたようです。



土 塔

行基が建立した大野寺の仏塔で重要文化財です。発掘調査により、一辺53m、高さ約9mの十三重の塔で、各層には瓦が葺かれていたこと



が分かりました。十二層まで復元されていますが十三層目には何があったか明確でないが、出土物から八角形の木造建物が復元されています。

今回の歴史フォローアップ研修では、数々の行基の功績の中でも、故郷での偉業を中心にそのルーツを見ました。飛鳥、奈良時代に生きた彼の人生は仏教の普及と人々の救済、彼らの生活用に係る灌漑用の溝やため池、橋梁工事等でした。多くの人々から慕われた苦悩に満ちた生涯だったかもしれません。

皆様方も今一度、ここを訪れてはいかがでしょうか。